

登録解体基幹技能者講習考査試験問題

(試験時間 60 分)

[注意事項]

- (1) 受講番号は、受講票で確認してください。
- (2) 問題は全部で 25 問です。
- (3) 解答する際は、別紙のマークシート解答用紙を使用してください。
- (4) マークシート解答用紙のみ回収します。
- (5) この問題用紙は持ち帰っても構いません。

受 講 番 号						

氏 名	(フリガナ)
	(漢字)

問題1 登録解体基幹技能者の能力に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の技能や技術の継承を考え、後継者を育成、指導する能力
- ② 工程を把握し、必要な資機材の調達や段取りをタイムリーにできる能力
- ③ 技能者の安全衛生の確保を重視し、労働災害の撲滅に努める能力
- ④ 建設副産物の専門的な知識を有し、排出事業者となる能力

問題2 登録解体基幹技能者の意義と役割に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 建設キャリアアップシステムの能力評価基準のレベル4になれる資格者
- ② 解体工事全体の施工管理を行う技術者
- ③ 技能者の目標像として活躍が期待される技能者
- ④ 熟達した技能と豊富な知識がある技能者

問題3 登録解体基幹技能者の役割に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 技能者に対する施工に関わる指導、指示、統率
- ② 品質、コスト、工程、安全、環境などの施工管理
- ③ 他社との価格交渉
- ④ 第三者や近隣に対する配慮や対応

問題4 OJTの意味として、**最も適当なものはどれか。**

- ① 参考書を通じた学習によって、知識やスキルを身に付けていく方法
- ② 研修機関などにおける訓練によって、知識やスキルを身に付けていく方法
- ③ 実際の現場において実務に従事することを通じて、知識やスキルを身に付けていく手法
- ④ 実際の現場を見学するだけで、知識やスキルを記憶する手法

問題5 OJTによってもたらされる教育効果に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 実際の現場で仕事をしながら教育を行うため、実践的なノウハウが学べる。
- ② 現場の手順を見せるだけでよい場合、コスト上のメリットがある。
- ③ 現場で直接指導を行えるため、理解度の確認ができる。
- ④ 指導者自らが手順の確認を行うことにより、現場での視野の広がりにつながり、安全に対しても配慮が増す。

問題6 OJTを進める上で設定する教育目標のあり方に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 実務に即して、日常業務の中で達成可能な目標を設定する。
- ② 労働者が自発的に取り組み、モチベーションを高められるような目標であること。
- ③ 教育訓練計画を定めておけば、目標が具体的である必要はない。
- ④ 訓練の終了時に、成果物や行動変容をもって効果を評価できる目標であること。

問題7 解体工法の選定に当たって検討しなければならないものの中に、**必ずしも含まれないもの**はどれか。

- ① 安全性の確保
- ② 建物の老朽化の程度や床強度
- ③ 周辺環境保全
- ④ 解体工法の目新しさ

問題8 施工計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 解体建物の設計図書や資料が少ない場合には、綿密な現地調査を行うことが必要不可欠となる。
- ② 施工計画は、登録解体基幹技能者のみならず企業の能力を結集して行うべきである。
- ③ 専門的な知識とノウハウを身に付けた者でなければ、適正な解体工事の施工計画はできない。
- ④ 施工計画の良否によって企業の収益に大きな影響を与えることはない。

問題9 施工要領や作業手順に関して作成する書類として、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 建設副産物処理手順書は、下請が建設副産物のリサイクル処理に重点をおいて作成し、元請の承認を得て処理するための書類である。
- ② 施工計画書は、元請が対象工事の品質、工程、安全等、工事全般の事項について作成し、工事に着手するために発注者の承認を得る書類である。
- ③ 施工要領書は、下請が工種ごとに品質管理に重点をおいて作成し、元請の承認を得るための書類である。
- ④ 作業手順書は、下請が安全管理に重点をおいて作業ごとに作成し、元請の承認を得て作業するための書類である。

問題 10 解体工事の工程管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 解体工事の工程表は、バーチャート工程表を使用していることが多い。
- ② 一般的な木造住宅(30坪程度)の解体工事には、ネットワーク工程表が最も適している。
- ③ 工程表には、月間工程、週間工程と色々な種類がある。
- ④ 工期の遅れは、発注者にも迷惑を掛けるだけでなく請負人も不利益となる。

問題 11 解体工事の工程表の作成に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 工程表は、まず標準工期を策定し、契約工期に適合するように検討調整して作成する。
- ② 大規模現場であれば全体工程だけでなく、月間工程表や週間工程表を作成する。
- ③ 工程表は、予定工期から逆算して各作業を組込んでいく方法で作成することが多い。
- ④ 工程表は、どんな場合においても発注者の指示通りに作成する。

問題 12 解体工事の工程管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 登録解体基幹技能者は、常に現場の工程、進捗状況を確認しながら必要な手配を行い現場の流れを確保する。
- ② 現場の流れに沿った人材、資材、重機、ダンプトラック調達を行う。
- ③ 建設副産物の搬出がスムーズにできるように計画する。
- ④ 産業廃棄物処理場の処理能力の把握は、排出事業者責任であり工程管理に影響を及ぼすことはない。

問題 13 解体工事の工事原価算出の際の積算根拠として、最も不適当なものはどれか。

- ① 実際に現場に必要な仮設費、分別解体の手間のデータ管理
- ② 重機の損料、廃棄物の運搬処理費、有害物の処理費、安全管理費のデータ管理
- ③ 会社利益のデータ管理
- ④ その他の経費、地域性などのデータ管理

問題 14 原価発生統制にあたって留意して行うものとして、最も不適当なものはどれか。

- ① 原価構成別に見て、原価比率の高いものを優先して低減する。
- ② 原価比率が高いものでも、低減しやすいものを優先して低減する。
- ③ 低減可能性の高いものから合理化する。
- ④ 利益費用のみを最優先に改善する。

問題 15 解体工事における原価管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 工事予算の中で、職長の現場判断に委ねられた段取りが大きく実行予算に影響する。
- ② 職長は、原価意識を持ち、現場を統率することが必要不可欠となる。
- ③ 日々の業務を圧迫しないように、大まかな積算方法により解体工事費を算出する。
- ④ 技術的に細分化された、より正確な歩掛かりにより解体工事費を算出する。

問題 16 解体工事の品質管理における手法に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① ブレーンストーミングを用いて意見を交換し、作業者間の考え方を共有するとよい。
- ② 管理図を用いて、品質特性値の時間的な変動を確認するとよい。
- ③ 特性要因図を用いて、課題となる品質特性とその要因の頻度を把握するとよい。
- ④ ヒストグラムを用いて、ヒヤリ・ハットなどの事象の発生状況を確認するとよい。

問題 17 解体工事の品質管理に関する考え方として、**最も適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の品質管理では、具体的な数値に基づく品質目標の設定は望ましくなく、自らの経験・体験のみに基づいてその時々判断するのがよい。
- ② 解体工事に求められる品質は、工事現場ごとに同一である。
- ③ 解体工事では、工事の各作業における過程（プロセス）の管理が必要であるので、各過程における要因を事前に分析しておく必要がある。
- ④ 解体工事の品質管理では、熟練技能者の意見のみを取り上げ、登録解体基幹技能者の強力なリーダーシップの基に進めるとよい。

問題 18 解体工事の品質管理に関する次の記述のうち、**最も適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の品質を確保するための作業標準書では、これまでの経験に基づく手順のみを定め、新しい工法などを積極的に取り入れるのは避ける。
- ② 解体工事の品質管理では、法令を順守するだけでなく、解体工事の行われる地域等の特性に応じた品質を確保する。
- ③ 解体工事の品質管理で用いられる管理図は、災害の原因となる各種の要因を体系的に把握するものである。
- ④ 解体の対象とする建築物に設計図書通りでない部分が判明した場合でも、工期を順守することが重要であるので、施工計画や施工要領書を見直してはならない。

問題 19 解体工事の安全管理に携わる心構えに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 事故や災害が発生する前から、事故災害対応のための手順書を作成しておくといよい。
- ② 事故や災害を防止するためには、作業員が作業の意味を考えずに職長の指示に従うよう指示・指導するとよい。
- ③ 指示が確実に伝達されるように、視覚や聴覚にも訴えるよう連絡方法を工夫するとよい。
- ④ 事故や災害を予防するためには、作業員全員で原因を分析し、共有するとよい。

問題 20 解体工事の安全管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① ヒヤリ・ハット報告書は、労働災害の可能性を示す会社の機密事項であるので、管理者が厳重に保管し、法令上の要請がない限り、作業員には開示しないようにする。
- ② 作業手順書は、図などを用いて作業の危険・有害箇所やその対策が作業員にわかりやすいように作成する。
- ③ 現場における自主的な安全衛生管理活動を促進するためには、全体朝礼、KY活動、安全当番などの方法を採用すると有用である。
- ④ 安全朝礼やミーティングでの指示が十分に作業員に伝わっていない場合、不完全な連絡の責任は、連絡を行った管理者にある。

問題 21 解体工事に携わる作業員の健康管理と指導を行う上で、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 作業員にとって快適な作業環境を整えると、災害防止に役立つ。
- ② 解体工事では、熱中症などの身体的な管理に加えて、メンタルヘルスについても管理・指導を行う必要がある。
- ③ 作業員に話しかけることは避け、遠くから見守るようにするとよい。
- ④ 作業員の健康状態に応じて、その日の作業分担や配置を検討するとよい。

問題 22 重機の管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 法令により、特定自主検査、月次検査（定期自主検査）及び始業前点検（作業開始前の点検）が義務付けられている。
- ② 特定自主検査は、法定機種別に応じた有資格者によって行わなければならない。
- ③ 月次検査は、法定機種別に応じた有資格者によって行わなければならない。
- ④ 始業前点検は、特別な資格を有しない者が行ってもよい。

問題 23 強力サポートの使用に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 使用長に応じた許容荷重以内で使用する。
- ② サポートピンは、強力サポート専用のもを使用する。
- ③ 強力サポートは、上下の台板の穴を利用して確実に固定する。
- ④ ハンドル部を緩める場合にハンマーが必要な場合は、握り部分を叩き取りつけ部分は叩かない。

問題 24 石綿関係法令に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 石綿の輸入、製造、使用などが禁止されたのは平成 18 年 9 月からである。
- ② 石綿事前調査記録は、3 年間保存しなくてはならない。
- ③ 石綿含有保温材等の除去工事計画は、14 日前に所轄の労働基準監督署に届け出ることが義務付けられている。
- ④ 石綿含有仕上塗材を電気グラインダー等を用いて除去する場合、作業場の負圧隔離養生をしなくてはならない。

問題 25 PCB 使用製品に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 高濃度 PCB 及び低濃度 PCB の処分期限は、すでに期限切れである。
- ② 高濃度 PCB は主に変圧器、コンデンサー、安定器などに使用されている。
- ③ 変圧器、コンデンサーに高濃度 PCB が使用されているかの確認方法の一つとして、取り付けられた銘板を確認し各メーカー等に問い合わせる方法がある。
- ④ PCB 使用製品等は、譲渡し及び譲受けが原則禁止されている。